

令和7年1月20日

## 1月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では、間伐・皆伐作業とも順調に進んでいる。県西地域では安定した作業であるが、県北地域は降雪の影響で一部現場に入れず、出材量は少ない目である。スギ、ヒノキ材とも引き合いは強く、価格も全体的に強保合で推移している。スギは3.0m柱材で17,000円台後半、4.0m中目材も16,000円台半ば。ヒノキは品不足から高値が続いており、3.0m柱材で23,000円台、4.0m中目材は24,000円台後半で推移。

群馬県では原木の出材量は徐々に増えているが、スギ、ヒノキとも4.0m材が少ない。製材工場の原木在庫は3m材は通常の120%であるが、4m材は30%程度。製品販売は首都圏・地場向けとも低調。製品在庫は間柱、仮筋、貫等は少ないが、割物や破風板類がダブっている。柱等の角類は均衡。4mの90角・105角KDは原木不足のため少ない。販売単価は維持しているが、原木単価の上昇で厳しい状況である。

### 2. 米材

12月の米国住宅着工数は149.9万戸(年率換算)で前月比15.8%増、前年同月比では4.4%減となった。米国製材品市況は11月に反落した後、ほぼ横ばい推移。先物価格はトランプ政権の追加関税リスクを意識し、現物価格に比べ割高で推移しており、非常に不透明感が強い。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/14)は435/MBF、12月頭に比べ1.1%の下落。伐採は順調で原木の港頭在庫は潤沢な水準にある。米マツIS級並の1月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。

11月原木入荷は86千 $m^3$ と2024年で3度目の10万 $m^3$ 割れになった。1～11月累計では1,322千 $m^3$ (前年同期比16.7%減)、カナダからの入荷は31.6%の大幅減。出荷は132千 $m^3$ となり、大きく出超。1～11月累計では1,409千 $m^3$ (同11.9%減)、在庫は143千 $m^3$ 、在庫率は1.12ヵ月。東京木材埠頭の12月製品入荷は7千 $m^3$ (前月比9.7%増)、出荷は9千 $m^3$ (同14.2%減)、在庫は28千 $m^3$ (同7.6%減)。円安により輸入製品が減少したため、需給が引き締まり、国内米材製材最大手は米マツ小角/小割を1月に値上げするとの発表があった。

### 3. 欧州材

第1・四半期(1~3月積み)は交渉中だが、集成材・羽柄製品は€15/m<sup>3</sup>値戻し、オファー数量は半減となった。産地サプライヤーはインフレにより原木、製材コスト、輸送、人件費等が上昇しており、日本側が値段を出さない限り、他市場にシフトせざるを得ず、今年は欧州製品の供給減少が予想される。間柱類は一部サイズに品薄感が出ており、価格も回復基調にあるが、需要自体がスギ製品に替わっており、WW間柱は地盤沈下している。集成柱・集成梁は第1・四半期の産地価格が値上がりしており、またWW集成柱の供給量はタイトになっている。プレカット工場の受注、国内集成材メーカーの売腰とも未だ慎重姿勢で値戻しには至っていないが、今後値戻しの可能性は大きい。11月の東京港入荷は9千m<sup>3</sup>と前月比大幅減、出荷も20千m<sup>3</sup>と前月比減少。在庫は49千m<sup>3</sup>で12月、1月はさらに減少となる。

### 4. 北洋材

産地では12月、1月に入ってから例年になく暖冬である。伐採搬出のピークを迎える時期だが、経済状況や需要の弱さのため、原木生産は抑制的である。依然として中国からの引き合いは強くないが、ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調である。アカマツ完成品の産地価格は、ようやく\$570/m<sup>3</sup>まで下げてきたが、円安のためコストは大きくは変わらない。国内でのアカマツ野縁製品は数量不足により10万円台を維持している。上級グレードの品不足と高値張り付きにより中級、低級グレードへの引き合いが強まっている。11月の製品入荷(東京+川崎)は8.3千m<sup>3</sup>で顕著な入荷増は見えてこない。出荷は10.9千m<sup>3</sup>で実需に迫力がない。在庫は28.6千m<sup>3</sup>で今後は漸減が予想される。

### 5. 合板

合板工場への原木入荷は順調だが、仕入価格が上昇しており、合板製品への転嫁も顕著に表れるだろう。12月の各メーカーの値戻し表明により価格は横ばいとなり、1月は値上げに転じた。11月の合板生産量は22.6万m<sup>3</sup>。針葉樹構造用合板の生産量は19.9万m<sup>3</sup>、出荷量は20.4万m<sup>3</sup>、在庫量は15.7万m<sup>3</sup>で前月より4.3千m<sup>3</sup>減少。トラック確保の困難が影響して即納は不可能な状況である。輸入合板価格は国産合板の底値に引っ張られ、また円安により上昇傾向にある。輸入型枠合板が品薄になっている。合板輸入量は8月以降、4ヵ月連続で17万m<sup>3</sup>台の推移。マレーシアでは慢性的な原木不足が継続し、生産量は上がっていない。日本からの注文もそれ程多くはない。インドネシア

では植林木を中心に生産は順調だが、日本からの注文は少ない。

#### 6. 構造用集成材（国内産）

12月のラミナ入港量は遅れていた分が入り、前月に比べ1割程の増加。適正在庫であるが、今後は需要減により契約量を絞っていく動きになる。第1・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€280～290/m<sup>3</sup>程度。産地では需要減のため減産体制をとる見込みである。国内集成材メーカーの受注は前年同月比90%の水準であるが、4号特例の縮小に伴う駆け込み需要の発生により昨年と同等の荷動きがある。長物や尺上の価格は強含み。11月の構造用集成材の輸入量は小断面21,843 m<sup>3</sup>（前年同月比0.3%減）、中断面16,529 m<sup>3</sup>（同16.2%減）。

#### 7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材（C材）の引き合いが強い。燃料材では能登半島地震の震災廃棄物の処分が本格化し、一部地域では余剰感が強まり、受入抑制が見受けられる。製紙会社では用紙、板紙ともに抄物の集約化を進めており、原料構成が変化している。総じて製紙用原料は減少。年末年始は燃料用の需給が逼迫するが、今冬は震災廃棄物の大量発生により集荷の混乱は見られない。原料用の在庫は横ばいだが、燃料用は一部地域で震災廃棄物の大量入荷が続いており、在庫過多の状況にある。

#### 8. 市売問屋

年明けで構造材、造作材とも荷動きは少ない。材木店では材の不足感がないため、様子見の状況である。東北地方では降雪で原木が凍結し、製品出荷量が少なくなってきた。問屋の在庫は少ないため、荷の引っ張り合いになりそうな状況である。製品市況は弱保合であるが、原木高のため、バタ角は値上げになるかもしれない。

#### 9. 小売

国産材では原木高、製品安が続いている。一方、東京港の港頭在庫は減少傾向にあり、在庫調整が進んでいる。羽柄材を中心に品不足になれば価格の押し上げに繋がりたいところだが、実需は弱いため春先までは当用買いが続くそうである。国産材構造材は纏まった仕事も見えず、当用買いが続いている。外材構造材も引き合いは弱いままで、価格は弱含みで進みそうだ。造作材では外材製品の代替材として比較的安価なスギ、ヒノキの枠材が定着してきたが、全国的な原木の出材減により役物平割の入手が困難になってきた。今後とも入荷減は続きそうで単価も高値で推移するものと予想される。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年1月20日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	↘	→	↘

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

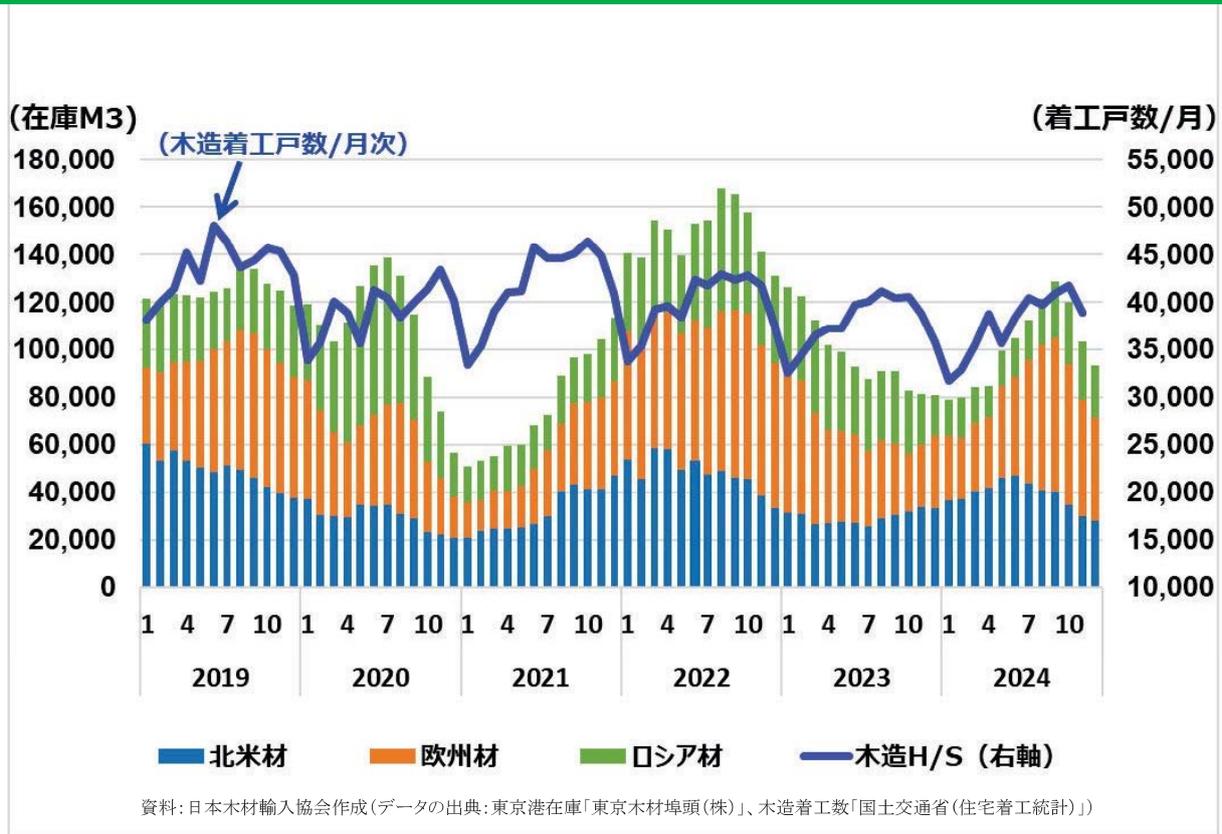
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13'	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
			アカマツ(KD) 30×40上級	→
	欧州産		アカマツ(KD) 24×28 積木	→
			〃	ホワイット' 集成柱 JAS 5プライ
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
			ホワイット' 集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

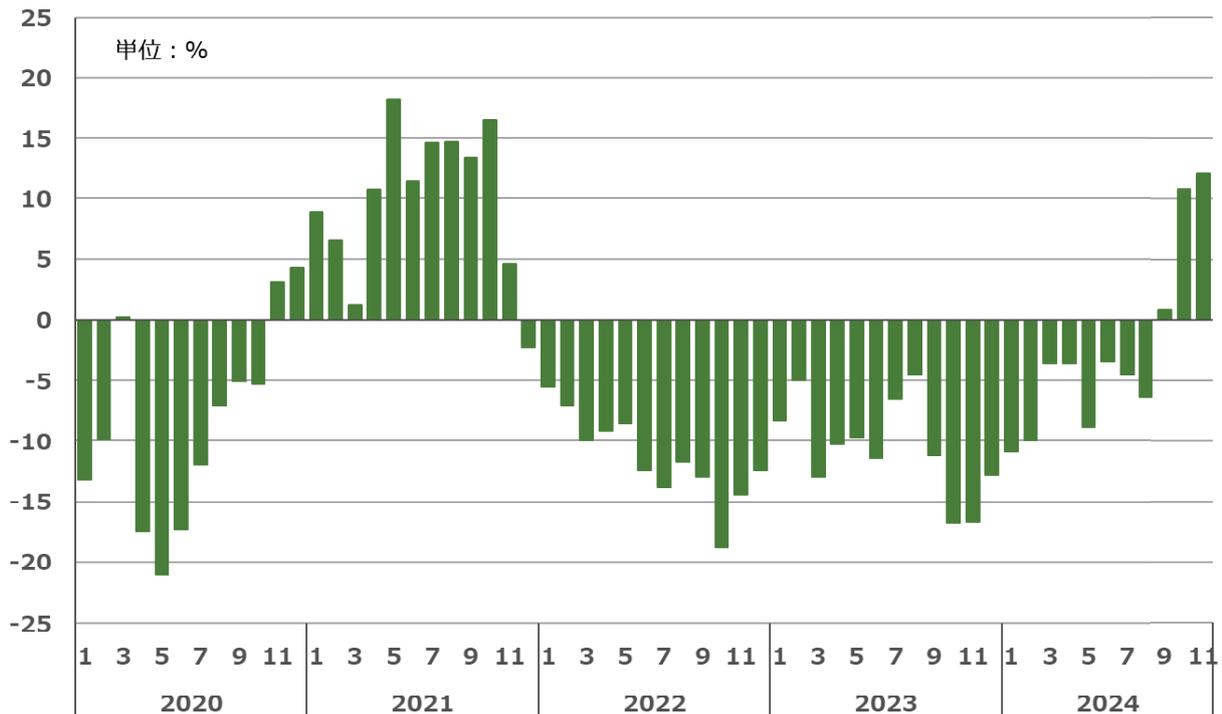
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

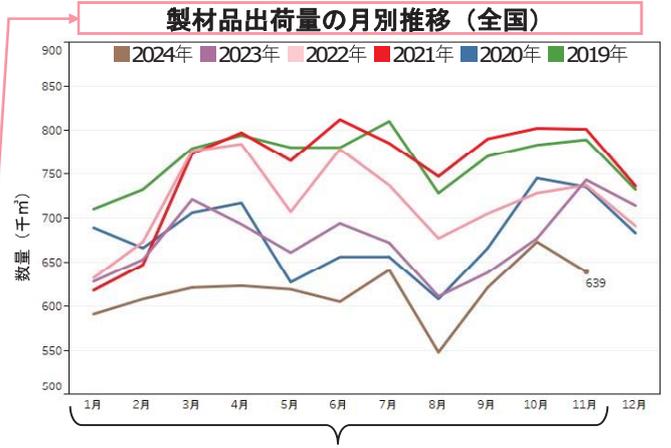
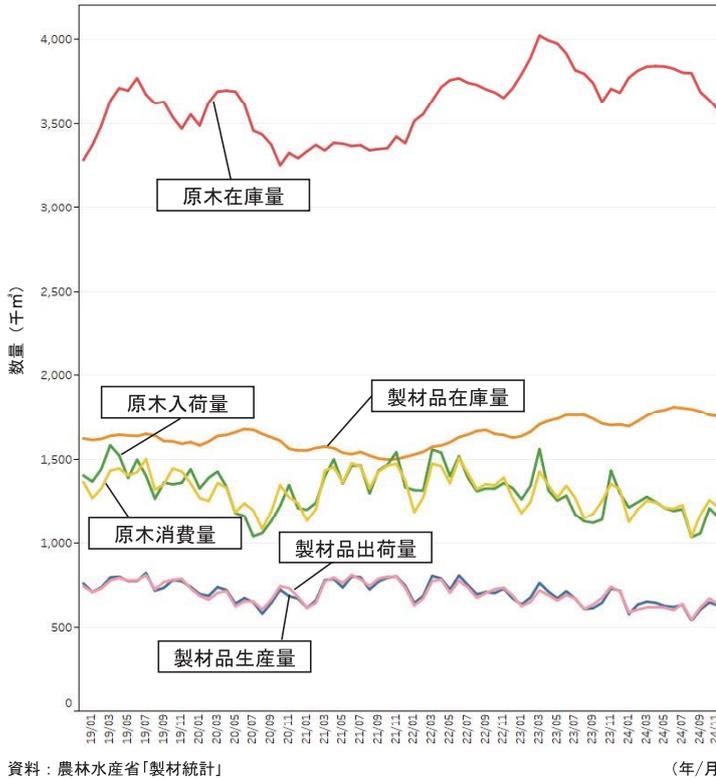
住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。



参考図表 3

### 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2024年1～11月の原木の入荷量は13,047千m<sup>3</sup>（2019年比84%）。
- 同様に製材品の出荷量は6,789千m<sup>3</sup>（2019年比80%）。

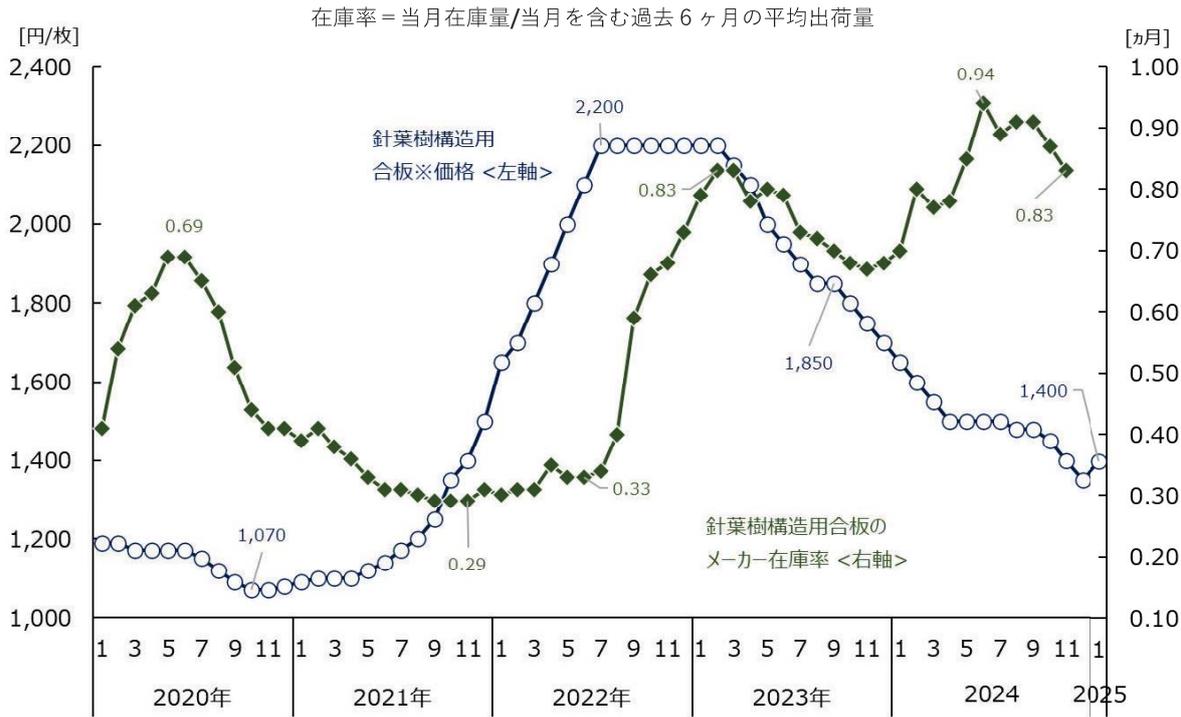


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～11月原木入荷量合計(千m <sup>3</sup> )	15,534	13,615	15,352	15,348	14,010	<b>13,047</b>
2019年との比較*	-	88%	99%	99%	90%	<b>84%</b>
1～11月製材品出荷量合計(千m <sup>3</sup> )	8,455	7,471	8,337	7,934	7,391	<b>6,789</b>
2019年との比較*	-	88%	99%	94%	87%	<b>80%</b>

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

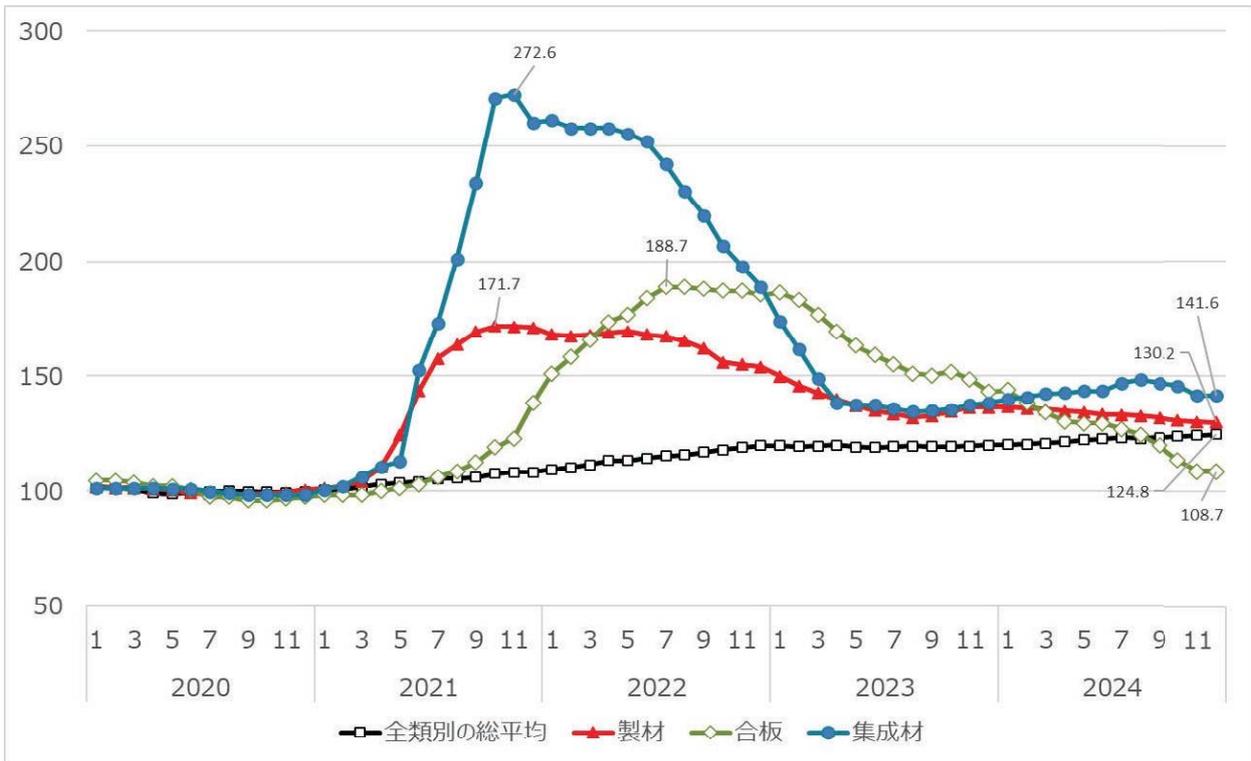
参考図表 4

### 針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

## 国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

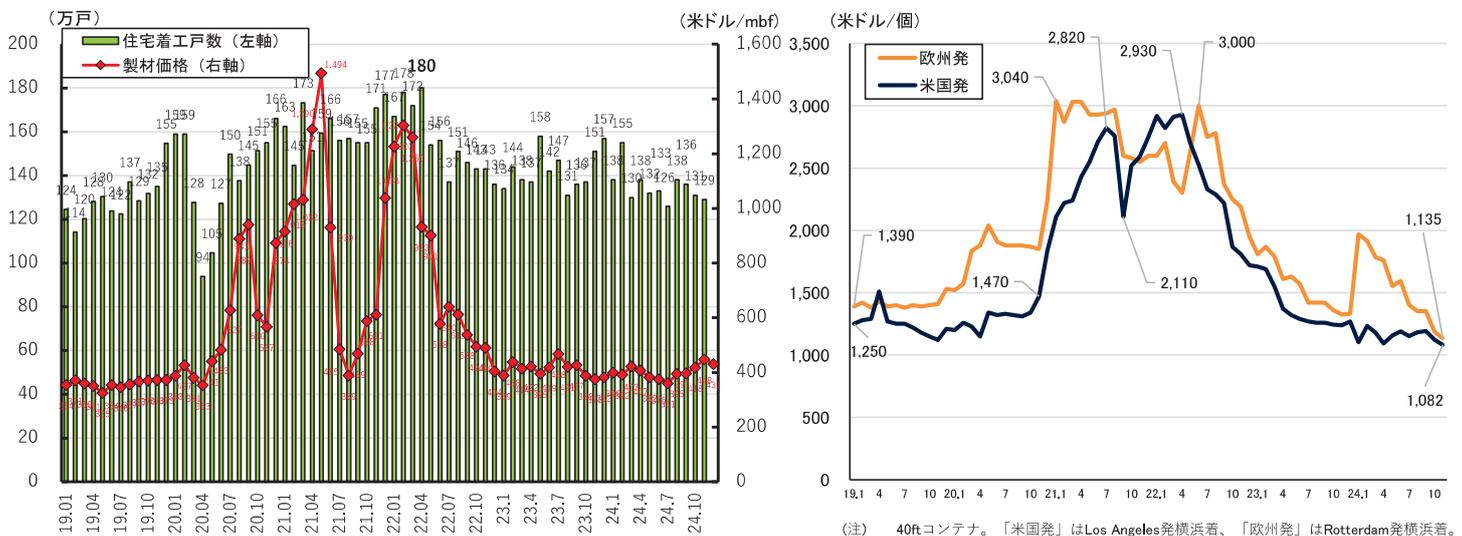


資料：日本銀行「企業物価指数」

## 米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について  
(林野庁木材貿易対策室)

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130~150万台で推移。2024年11月は前月比▲2%減の約129万戸。
- 北米の木材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年12月は431ドル/mbf（前月比▲4%減）。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したもの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が一時高騰。



資料：(住宅着工戸数) 米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)  
(製材価格) Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」(月末価格、2022年6月以降は月中価格)

(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。  
(出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」  
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

日本向けコンテナ運賃の推移